

R 4 年度空き家実態調査結果

物件数

空き家
1,530

総合判定

A		B		C		D	
1,109	72.5%	222	14.5%	185	12.1%	14	0.9%

老朽度判定

	状態						周囲への影響					
	L1		L2		L3		○ほとんど影響がない		△影響がある		×相当の影響がある	
保安上	1,332	87.1%	175	11.4%	23	1.5%	1,426	93.2%	97	6.3%	7	0.5%
衛生上	1,438	94.0%	88	5.8%	4	0.3%	1,455	95.1%	75	4.9%	0	0.0%
景観上	1,234	80.7%	277	18.1%	19	1.2%	1,402	91.6%	126	8.2%	2	0.1%
その他	1,325	86.6%	196	12.8%	9	0.6%	1,434	93.7%	95	6.2%	1	0.1%

- ※総合判定 A：小規模の修繕により再利用が可能（または修繕がほとんど必要ない）
 B：やや維持管理不足であり、損傷もみられるが、当面の危険性はない（多少の改修工事により再利用が可能）
 C：ただちに倒壊や建築資材の飛散等の危険性はないが、維持管理不足のほか、損傷、老朽化が見受けられる
 D：倒壊や建築資材の飛散等の危険性があり、解体等の検討が必要と思われる

※老朽度判定における「状態」は、L3が最も悪い状態（例 L1：小破、L2：中破、L3大破）